

平成27年度 農林部 方針書

農林部長 佐藤誠悦

1. 部の使命（役割）

- ・地域の特性を生かした活力ある農業の振興
- ・観光産業や市域企業との横断的連携による6次産業化の推進
- ・未来を担う後継者育成
- ・持続可能な横手市農業の構築

2. 平成27年度における課題（前年度の振り返りから）

1. 米価の大幅下落対策を主とした、新たな農業農村政策への転換
2. 雪害復旧対策と防災型果樹産地の形成
3. 商工部門との連携による6次産業化の推進
4. 農業農村地域の創生、持続発展に寄与する拠点構想の実現

3. 平成27年度の『スローガン』

“みちをひらく”

“人を育て、農業で生き残れる道を開こう”

- ・シンプルに考える。・政策にも需要がなかったり、消費期限があると認識する。
- ・情報量の差がものをいう。・専門家を使う。・自分のネットワークを十分活用する。

4. 年度目標となる方針（目標）

- ・生き残れる地域農業づくり
- ・米価下落や農業改革に対応できる農業所得確保への誘導
- ・横手ブランドの確立と横軸連携による6次産業化の推進
- ・創意工夫に富んだ生産者がチャレンジできる生産環境の整備

5. 重点取組項目

(1)	項目	・生き残れる農業経営への取り組み推進
	取組内容	・米の大幅下落や変革に即応できる情報収集と農地フル活用による所得向上対策への取り組み（飼料用米の作付推進の検討と飼料用米加工施設設置に向けた情報リサーチ活動等） ・雪害に負けない果樹復旧対策強化と老齢樹改植に向けた早期多収改植技術の検討 ・現行野菜価格保証制度の検証と今後の所得安定に向けた方策の検討（マル農拡充の検討等） ・木質バイオマス利活用対策と森林路網整備の推進
(2)	項目	・地域ブランド戦略の推進
	取組内容	・継続した横手ブランドの確立と数品目の販売戦略の実施 ・市民全体による横手産品PR対策の実施と6次産業化の推進 ・農業・食育・健康・観光等横軸連携による地域づくりの推進
(3)	項目	・よこて農業創生大学事業の実施
	取組内容	・地域価値創造構想の策定 ・地域のブランド力を高める人材育成、トップブランドづくりなどの戦略の企画・立案 ・実験農場の環境整備による積極的農業振興の推進

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況 【現状】

- ・農業所得確保のため、各種施策を実施した。
- ・農地中間管理機構を通じた担い手への集積については、JAとの連携と圃場整備の進捗が効を奏し、予想を超える申請が提出されている。
- ・新たな高収益型農業経営モデルの構築や農産物のブランド化の推進のため、普及活動や各種研修、試験栽培研究などの拠点づくりを行う「よこて農業創生大学事業」に着手し、基本構想等策定のため、推進協議会を立ち上げた。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

- ・天候と病虫害により、作目毎の収益に差異がみられたため、各種施策、制度の活用で、来年度以降の経営が安定的に行われるよう、推進していく。
- ・JAと連携しながら、「よこて農業創生大学事業」における基本構想と計画を策定し、今後の具体的な取組みがスムーズに行われるよう進めていく。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

- ・米価下落と生産数量目標の削減の中、新規需要米への取組みが増加、とりわけ飼料用米への取組みが飛躍的に増加した。国の施策に基づいた積極的な啓蒙と指導の成果と考えている。引き続き農業情勢、国、県の動向など、積極的な情報収集を行い農業団体と連携しながら農家所得の維持向上を図っていく。
- ・横手市農産物のブランド化に向けて、目指すべきブランドの方向性について整理することができた。今後は、市場シェア拡大型ブランドを主にブランドの確立を目指していく。
- ・果樹においては、雪害からの復旧対策の効果が表れ、豊作型の収穫が期待できる出来になりつつあったところに2度にわたる風害で、再び被害を受けてしまった。今年度で終了予定だった果樹薬剤助成を風害対策にきりかえ、来年度1年限りとした助成を継続することにした。対処療法的な支援だけでなく、今後の収穫増に寄与する施策展開を実施し、再度復旧への道筋をつけていくこととする。